

社会資本総合整備計画(都市・地域交通戦略推進事業)

持続可能な公共交通ネットワークの形成に資する  
新たな交通結節点整備

あきたけん あきたし

秋田県秋田市

平成31年2月

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

平成30年01月29日

計画の名称	持続可能な公共交通ネットワークの形成に資する新たな交通結節点整備												
計画の期間	平成30年度 ~ 平成32年度 (3年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	秋田市												
計画の目標	新駅を核とした交通結節点を整備することにより、新たな移動手段が確保されるとともに鉄道とバスが連携され、公共交通の利用促進による過度に自家用車に依存しないライフスタイルへの変革や、利便性向上による居住誘導の推進に寄与する、将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークを形成する。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,415	A	1,415	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30当初	H31末	H32末
1	日常の移動手段における自家用車から鉄道への転換を促進する。 新駅利用者のうち、日常の交通手段を自家用車から鉄道に転換した者の割合	226%	226%	227%
2	新駅周辺地区への居住の誘導を図る。 泉・外旭川地区の人口が市内総人口に占める割合	83%	83%	86%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

案件番号： 000059337

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	H32	H33	H34			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	A13-001	都市交通	一般	秋田市	間接	JR東日本	-	-	泉・外旭川新駅(仮称) 等整備事業	鉄道施設及び連絡通路	秋田市						777	2.46	-
	A13-002	都市交通	一般	秋田市	直接	秋田市	-	-	泉・外旭川新駅(仮称) 等整備事業	駅前広場等	秋田市						638	2.46	-
											小計						1,415		
												合計						1,415	

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H30				
配分額 (a)	25				
計画別流用増 減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	25				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	25				
翌年度繰越額 (f)	0				
うち未契約繰越額 (g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					



## 事前評価チェックシート

計画の名称： 持続可能な公共交通ネットワークの形成に資する新たな交通結節点整備

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性 上位計画との適合等 1) 秋田市総合交通戦略と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 上位計画との適合等 2) 秋田市地域公共交通網形成計画と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 上位計画との適合等 3) 秋田市立地適正化計画と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 1) 定量的指標が整備計画の目標達成へ向けた指標となっている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 3) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 1) 事業実施に向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○